

第4回 札幌市シティプロモート戦略会議 開催結果概要

1. 開催概要

- 日 時 平成 23 年 3 月 23 日（水） 16：00～17：30
- 開催場所 札幌市役所 19 階会議室
- 出席者 (株)JT北海道人営業札幌支店営業 3 課営業課長 阿部 晃士
WEBOSS(株) 札幌 100 マイル編集部 編集長 小山内 美香
東京大学大学院 客員研究員 杉山 幹夫
SODA 代表 曾田 雄志
放送人の会幹事/STV 役員待遇メディア・プロデューサー室専任局長 林 健嗣
(株)コスモメディア編集部 局長 兼 「poroco」編集長 八木 由起子
(株)キャンディハウス道央支店 白鳥 孝

<事務局>

札幌市 市長政策室 プロジェクト担当部長 西野 守彦

〃 課長 北川 憲司

政策企画部 企画課 企画担当係長 中嶋 俊輔

企画担当 川上 竜矢

(株)KITABA 東村、宮崎、吉田

3KG 佐々木

(敬称略)

2. 議事 ※委員の発言の併記であり戦略会議の一致事項ではありません

① シティプロモート戦略について

- ・ シティプロモート戦略は、これまでの議論の通り、「笑顔」をテーマに据える。
- ・ シティプロモートのロゴマークは、CGMなどを意識した、誰でもWEB上で書くことができる、キーボードで入力可能なテキストとする。

② 東日本大震災の影響について

- ・ 旅行業界は、毎日キャンセルと安否確認への対応に追われており、その被害は甚大である。
- ・ 震災で日本のすごさを改めて感じることもある。飛行機やJR、地下鉄などの公共交通は、数日で運行が回復した。日本人の冷静な対応も、海外から高く評価されている。
- ・ 日本は風評被害を多く受けている。北海道は安全な土地であるが、アメリカでは、ノースジャパンは全滅と報道されている。一つ一つ風評被害を打ち消していかなければならない。

③ 震災復興に向けて必要なこと

- ・ シティプロモートでは、震災を乗り越える札幌市のあり方を表現できると良い。震災を受けて、自治体間の連携は既に進化している。
- ・ 北海道も産業面などでは被災地ではないか。北海道も復興に向けた活動が必要とされている。これからのために札幌は安全、札幌は魅力的ということを伝えることも重要である。
- ・ みんなで前向きに北海道と札幌を支えてほしい。風評被害を打ち消す主役は、個人個人だと思う。たくさんの人に来てもらって、北海道は安全だということをアピールしてもらう必要がある。
- ・ 震災の関係では、被災地の自治体職員は、心身ともにダメージが大きく、職員へのケアも必要となる。

④ 戦略会議メンバーが主体的に考えているシティプロモーション

- ・ スポーツ選手は、夢や元気を与えることが期待されており、復興のきっかけとして、北海道のスポーツ選手をつなげて何か継続的な活動を行いたいと考えている。一過性の募金活動とは異なる継続的な活動が重要と考えている。短期的には、被災地への行動を考えているが、中期的には被爆者や子どもたちへの支援活動、そして、長期的には、北海道の発展のために何かできないかと考えている。
- ・ 旅行業界も先に進まなければならない。状況が整えば、東北地方へ旅行客を送るアクションも行うし、インバウンドの営業も強化している。旅行業界は、阪神大震災も 9.11 テロも乗り越えてきた。新しい日本をつくりあげていきたい。
- ・ 子どもたちの将来を考えると、産業の活性化は重要な課題である。大通高校の学園祭では、地域連携と防災教育のプログラムとして、地域と連携して炊き上げを行った。大通 CC (クリエイティブクラブ) という独立サーバーのホームページを立ち上げてシティプロモートの活動を展開するなど、様々な地域活動を進めてきている。こういった活動の結果、企業からの協賛も集まってきたし、学生自身がスポンサーを集めてきている。教育にも産業育成の視点が重要である。
- ・ これからのデザインの発展の方向性は、イスや家具などから飛び越えた考え方が必要となる。地域イメージから始まるデザインを展開したい。島判官の歴史的コンセプト「シマイズム」をデザインで伝えていきたい。「シマイズム」で市民が幸せになるというストーリーを広げたい。
- ・ 放送人の会では、震災を受けて、札幌で行う予定であった国際会合をキャンセルした。しかし、復興のためには、たくさんの人に来てもらって、北海道は安全だということをアピールしてもらうことが重要と考えた。強い意志を持って、放送人の会の国際会合を 9 月に開催する方向で動いているので、皆で応援してほしい。

- 震災の後感じたことは、伝わらない情報と、伝えたい情報があるということである。そういう面では、CGM の持つ力は大きいのではないか。札幌 100 マイルでは、ブロガーを巻き込みながら、様々なことに協力できるのではないか。